

新型コロナウイルス感染症への武蔵野文化事業団の対応

◎ 対応の主な経緯

月	事項
2月	各施設マスク配布、マスク着用掲示／3月までの公演中止・延期決定
3月	全施設閉館。使用料返還
4月	予約受付を休止／9月までの公演中止・延期決定。チケット発売中止。アルテ友の会会員期限延長。チケット発売情報紙発行休止／職員出勤を抑制
5月	文化事業団 YouTube チャンネル開設
6月	利用案内、消毒液など整備の上、施設再開（8日）
7月	施設予約受付を非接触型（郵送・FAX）へ見直し／公演再開。スイング寄席・武蔵野寄席などを市民文化会館大ホールへ会場を移して開催／公演におけるサーモカメラによる検温開始
8月	施設使用料50%減額への対応
9月	収容率等の使用条件を100%へ見直し
10月	複数人による合唱・管楽器・ダンス等での使用及び茶道での使用を再開

◎ 対応の特性

■ 複数施設を活用した事業運営

- ・多数の施設を有することから、公会堂・スイングホールで予定していた公演を、市民文化会館大ホールに移すことができた。この方法により、収容率が制限されていた期間においても、公演開催を可能にし、コロナ禍の生活において直接の鑑賞活動を期待する観客へ、比較的早い時期から対応することができた。

■ 多様な動画配信・WEB対応

- ・YouTube チャンネルを開設し、動画配信を開始したが、これまでの公演やアウトリーチの実績からゆかりのあるアーティストに出演いただくことができた。コロナ禍において、直接会場に入らなくても鑑賞活動を行いたい観客層や、舞台上での活動が制限されたアーティストの求めにも応ずることができた。藤原真理 チェロ・コンサートは、17,500回近い視聴を得た。また、WEB配信については、YouTube だけでなく、バーチャル背景の配信や、提携カンパニーによる公演のWEBへの移行、民間事業者との共同制作など多様な手法で実施している。

■ アウトリーチ実績による学校・子ども施設との関係性

- ・子ども向け動画配信については、学校が休校の中、子どもたちの文化的な体験の求めに応じるものとして実施した。昨年度、市内学校アウトリーチに出演した須川展也の動画アウトリーチには、子どもたちの質問が寄せられたほか、学校教諭から手紙をいただくなど、これまで進めてきた地域との関わりが反映された。

■ 安全対策への配慮

- ・国の補助金なども活用し、施設再開時の消毒液などの整備、公演のためのサーモカメラの整備など、施設・公演再開に向け、安全のための対応を進めた。

■ 市との連携による迅速な対応

- ・市民活動推進課を通じて市の方向性を円滑に共有しながら、市新型コロナウイルス感染症対策本部会議決定事項を反映した体制を整備した。このことにより、施設閉館、閉館延長、再開、使用条件などについて、利用者へ適切に情報提供を行うことができた。
- ・日頃の施設利用実態を市と共有し、利用者に安全に利用いただける条件を早期に決定し、また適宜見直しを行うことができた。